

令和4年度 学校評価 学校関係者評価書 目標・評価項目 (取組内容) 等

1 学校教育目標

(校訓) 自立 元氣 ともに伸びる

2 本年度の重点目標

Open (オープン) Share (シェア) そしてTeam (チーム) 一人一人が「輝き」、「主体的」に活動する児童生徒の育成

- Open (オープン) Share (シェア) そしてTeam (チーム) 一人一人が「輝き」、「主体的」に活動する児童生徒の育成
- ① 生命の尊厳、人権が尊重され、自己肯定感や所属感、成就感を育む学校文化の醸成に努める。
 - ② 個々の障害や特性、発達段階の実態把握に基づき、「個別の教育支援計画・指導計画」を柱に、個々の持てる力が最大限に発揮できる指導支援体制を確立する。
 - ③ 心身の調和的発達と個性の伸長を図るとともに、社会の一員として主体的に生き生きと暮らす意欲を高め、必要に応じて、知識、技能を習得する。
 - ④ 危機管理体制の徹底、危機意識の向上を図り、緊急時体制の更新やヒヤリ・ハット事例の積み重ね等、より具体的・実践的な研修・実践的充実を図る。
 - ⑤ 地域の学校等との交流、共同学習、ふれあいを通して、共に生き生きと暮らす意欲と態度を養う。
 - ⑥ 組織的に取り組める校内体制を整備し、地域の学校等や関係機関と連携を大切に、特別支援教育のセンターとしての役割を果たせるよう努める。

3 自己評価結果(達成状況)【A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない】

評価の観点	R4年評価項目(取組内容)	R4年 評価取組(達成)の状況	評価	R4年 改善の方策
児童生徒理解	<ol style="list-style-type: none"> ① 学校と家庭・各関係機関との連携による学校生活の充実 ② 個別の教育支援計画・指導計画の作成・評価による指導支援の工夫と改善 ③ 職員全体での児童生徒の共通理解による組織的な指導の充実 	<ol style="list-style-type: none"> ① 担任と保護者との連絡帳や電話連絡での連絡を取り合う中で、学校と家庭との連携を充実させることが出来た。各関係機関とは、保育所等訪問支援事業での連携やサード担当者と学校、放課後等デイサービスとの会議を行う件数が増え、より個別に寄り添った指導支援につながった。 ② 保護者と連携し、個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成にすることが出来た。作成後も、児童生徒の実態をふまえた上で保護者と連絡を取り合い、支援・指導法を共に改善・継続することが出来た。また、個別の指導計画を作成時には、自立活動の目標を明確化するために「手順シート」を用いて確認した。 ③ 日々の情報共有の場であるクラス会や定例の学部会を実施した。全体での共有の場は、職員会議や職員朝礼で設けることが出来た。 	A	<ol style="list-style-type: none"> ① 今年実施できた各関係機関と学校、保護者と連携した情報共有の場の、効果的・効果的な実施、保護者への更なる丁寧な周知。主に学級担任が担っている家庭との連絡の継続。 ② 個別の指導計画作成にあたり、児童生徒の正確な実態把握・目標設定をより精度を高めていく必要がある。また、振り返りや改善を適宜実施していくことで、より児童生徒の実態に合わせた目標設定を行う。 ③ 職員間でより丁寧な観察・情報共有の徹底を進めていき、実践力の向上につなげていく。
学習活動	<ol style="list-style-type: none"> ① 一人一人に応じた自立や社会参加を目指した指導の充実 ② 児童生徒が主体的に活動できるところを目指した指導力の向上 ③ ICT活用を含めた教材研究や指導形態の研修の実施 	<ol style="list-style-type: none"> ① 個々の実態把握をもとに自立や社会参加を意識して、具体的な目標設定を行い、子どもたちの良さを活かした単元を構成した。中学部では、制作活動に於いて、各自の特性等に合わせ、作業分担をし、外部と連携し販売にも取り組むことができ、取組後、クラス会や学部会等で絶えず振り返りや共通理解を図りながら、指導・支援できるように取り組んだ。 ② 計画的に授業研究を実施し、講師の指導力を活かして、目標や支援の確認や振り返り等、児童生徒が主体的に活動できる授業を目指した。昨年より実施している「動作」「環境」「コミュニケーション」を観点とした3グループでの※OSP、でも1回4.5分月一回、継続的に指導改善に取り組んだ。 ③ タブレットやモニター等のICTを活用し、視覚的に分かりやすい授業を目指した。また、AIDドリル研修等の研修を実施した。※OSP→オープン・シェア・プロジェクト・・・教師が3グループより取り組みたい内容を選択し、より実態に即して取り組む研修活動。 	B	<ol style="list-style-type: none"> ① 今後も児童生徒の自立や社会参加に向け、社会人となるまでに切れ目のない支援に繋げるため、多方面からの情報による実態把握を行った上で、支援や指導法を見直し、最小の支援で自主的に学習できる指導を目指す。AAC(拡大代替コミュニケーション)の活用を進めている児童生徒が増え、きており、今後も活用的に学習や生活に取り組みしていく。引き続き児童生徒が主体的に取り組む。また、指導力や指導方法には個人差はあるが、組織としての指導力の向上に努める。 ② タブレット等のICTを授業等、新しい学習形態、特に今年度三木市で導入された「AIDドリル」を用いての指導を進めてきたい。誰もが簡単にログインできる機器等の使用について活用を共に進めていったり、研修や参観の機会を可能な範囲で設定したりする。
道徳・人権教育	<ol style="list-style-type: none"> ① 自己肯定感や所属感・成就感の育成 ② 個々に応じた将来の社会参加に向けた人権意識の育成 ③ 全体計画に基づく計画的指導 	<ol style="list-style-type: none"> ① 学習活動や行事、児童生徒会活動などを通して協働、経験の拡充をはかることで所属感、所属感、人権意識の育成に努めた。特に、ふれあいフェアティブルにおいて、各学部ともにお店を開く活動を通して、自分たちの学習してきたことが、人に意図されるという体験に繋がり達成感を感じることができた。 ② 主に学級活動や日常生活の指導の時間を活用して、日常生活の問題点を考えさせたり、校外学習の事前指導でルールやマナーの学習を行ったりすることにより、計画的に道徳の学習を行うことができた。また、更衣室の使用のルールや、体育館での遊び方など、課題が生じた際には、その機会を逃さず各学部間で情報を共有し、適切な指導を行うことができた。 	B	<ol style="list-style-type: none"> ① ②年間行事の精選を行いながら、ふれあいフェアティブルや学習発表会などの機会を捉えて、地域の方とのふれあいを通して学べる活動を設定する。また、教育課程を見直し、地域と社会との関わりが持てるような学習単元を創造することにより、人とのふれあいの中で児童生徒に豊かな人権意識を身に付けさせる。 ③ 全体計画に基づきながら、個々の発達段階を考慮しつつ、道徳科の学習時間を確保するために、各学部の年間授業計画の学級の欄に(道徳)として、月1回程度記載し、より計画的に道徳科の学習を進めて行く。また、道徳以外の学級活動の時間においても、道徳の内容項目を意識した指導を心がけ、児童生徒に道徳的実践力を培っていく。
交流及び共同学習	<ol style="list-style-type: none"> ① 相手校や関係機関との共通理解と児童生徒の実態に即した交流及び共同学習の充実 ② 自他理解やインクルーシブ教育の意義等の啓発 	<ol style="list-style-type: none"> ① コロナ禍が続いているが、相手校や関係機関と連絡を取り合い感染対策をしながら、対面での交流を増やすことができ、交流をすすめる前に事前学習の時間を設けたり、交流後にお礼の手紙やプレゼントを贈りあったりするなど、対面以外での交流も充実させることができた。 ② 専門家を講師として招き、共生社会を考える講演会を行った。昨年度に引き続き、対面とオンライン配信などの形式で開催し、市内の教職員や保護者、療育関係者など様々な立場の方と共に考える機会を設けることができた。 	B	<ol style="list-style-type: none"> ① 保護者の意向確認や、感染症対策の検討を十分に行うにつれて、引き続き対面での交流を充実させていく。交流校に副籍を置く制度の意義や目的などについて相手校と共通理解を図り、オンライン会議システムも活用しながら、交流内容について丁寧に検討していく必要がある。また、相手校で本校の教師が授業をする機会を増やしていくことも、交流及び共同学習の充実から、より具体的な話を聞きながらという要望があるため、共生社会の視点を踏まえながら具体的な内容の話をし、開かれた対話の場として、引き続き対面とオンラインなどどちらでも参加できるような形式を目指す。
学校行事	<ol style="list-style-type: none"> ① 授業時間数の確保及び感染防止の観点を考慮した行事の実施 ② 行事を通して児童生徒の自立と社会参加に向けた意欲や態度の育成 ③ 児童生徒一人一人の特性や発達段階に応じたねらいの設定や取組の工夫 	<ol style="list-style-type: none"> ① 行事に関わる時間や内容を、日々の授業の中で創出、実践し時間数確保に努めた。結果、児童生徒は着実に練習に取り組みすることが出来た。社会情勢の変化に際し、感染対策を実施したうえで、人と人が関わる機会を設けられるよう工夫した。昨年度より実施行事の内容を増やすことができた。 ② 行事に向けての活動を通して、他者と関わり互いに認め合い高め合おうという態度の育成を図った。また、行事当日には保護者との関わり合いを多く持つことができた。 ③ 児童生徒一人一人に応じた課題を各行事で設定することができ、フェスティバルや学習発表会では児童生徒の実態に合わせ、かつ保護者との交流を行える演目の設定をし児童生徒も保護者も楽しく活動することが出来た。 	A	<ol style="list-style-type: none"> ① 職員で行事の成果・課題を学級全体の個性を検討して取り組む。 ② 今年度は行事を通して保護者と関わる機会が多く設けられたことで、児童生徒の自己有能感を高められたのではないかと考えられる。今後も人との関わり合いを大切に、コロナ禍の中でのより良い行事の在り方、実施方法を考えながら実施していきたい。また、関係機関と行事を通じてどのような取り組みを持つか、今後の課題である。 ③ 今後とも、保護者や関係機関と情報共有しながら児童生徒の実態把握を丁寧に行ってねらいの設定や支援の工夫を行う。

<p>家庭・地域との連携 地域における特別支援教育のセクター的機能の発揮</p>	<p>①児童生徒のニーズに応じた情報提供及び研修会の実施 ②将来に向けた学校・家庭・地域・関係機関との連携及び教育相談の充実 ③本校の教育活動や特別支援教育に関する取組等の情報発信</p>	<p>①②セクター的機能として、進路や性教育、感覚統合等ニーズに即した研修会をそれぞれの担当者が中心になって計画、実施でき、市内から教員及び保護者も参加できた。性教育に関してはこれまでの個に応じた指導支援に食わず嫌い講師の先生により授業を行い、体験的実践的に学習することができた。男女共同参画等関係機関や他校職員、保護者共に特別な支援を要する子に対する理解を深めることができた。 ①②進路研修会に特別支援学校高等部と障害者総合支援センターから講師を招聘し、保護者が進路に関する情報提供を得ることができた。 ②近隣の特別支援学校高等部と連携し、進学に向けた学校見学会や説明会、障害者総合支援センターに案内し、特に3年生については個別対応で複数回積み重ねて進路相談を行った。 ②障害者総合支援センターははばたきの丘と連携し、施設の専門家PT、PTの方に児童生徒の観察実態把握を助言していただき子どもたちの指導支援に活かすことができた。 ②本年度も本校コーディネーターが、市内の学校園や市健康増進課等と連携して相談活動を行った。 ②就学進学希望検討された保護者・児童に対して、感染症予防及び対策のものと学校見学会や福祉関係とのモニタリングをオンラインで行うことができた。 ②③連絡網や電話、懇談、その他の機会に保護者と密に情報交換を行った。保護者と共有した情報を活かした家庭と学校、関係機関の連携に向け学部、学校、関係機関の情報共有に努めた。 ③学校通信、学部通信、ほけんだより、ホームページ等で定期的な情報発信をした。</p>	<p>①感染対策を行い、セクター的機能としての研修会等の実施を継続する。中学部生徒の参加体験が今年度はできず、今後を継続して出来るように講師と相談の上、設定していく。 ①②進路研修会や特別支援学校高等部のオープンスクールの案内等、保護者が進路に関する情報提供が出来る機会をより充実させていく。加えて、中学部の保護者生徒には年度初めの懇談等で特別支援学校高等部の見学会体験の案内等、個々に応じて風通しがもてるよう計画していく。 ③障害者総合支援センターのセクター的機能について、年度の初めや各担当者の集まりの機会等をとらえて市内小学校園の教師に周知し、活用を促す。また、研修会等の案内も継続する。 ③特別支援教育に関わる講演研修等の情報を収集し、教職員及び保護者にさらに啓発の充実を図る。 ③家庭との情報共有を密にし、連携して教育活動に取り組みことを継続する。 ③感染症対策をとりつつ、「すぐーる」の活用の工夫や方法を工夫する。本校教育活動についての発信の内容や方法を工夫する。</p>
<p>健康・安全指導</p>	<p>①児童生徒の実態に応じた健康管理と健康指導の推進 ②児童生徒の実態に応じた保健に関する研修の充実 ③安全・安心に関する教育・研修の充実及びより実践的な訓練の実施</p>	<p>①昨年度に引き続き、感染症予防を中心に行取からの指導事項を教職員間で共通理解した上で、健康管理及び健康指導を計画的に行った。日々の生活の中で、体温及び健康観察、家庭連絡等を行ないながら児童生徒の健康管理に努めた。日常生活の指導の中で、手洗いやマスク着用など感染症予防の基本を身に付けられたよう努めた。 ②保護者や教職員に対して児童生徒の実態に応じた保健に関する研修を計画的に実施し、理解を深めた。昨年度は、オンライン会議システムを使って、学校と家庭及び講師の業務所をつないで研修できる仕組み作りやオンラインでの保健に関する研修を実施したが、今年度は対面並びにオンライン両方で実施した。また、中学部生徒が初めて性教育研修に参加し、体験活動を楽しんだ。「命の大切さ」について学習した。 ③火災や地震を想定した避難・誘導・引渡し訓練に取り組んだ。今年度は、はじめて休み時間に避難・誘導訓練も行った。児童生徒一人一人について、医師からの指示書や身振依頼書を保護者・共通理解を行った。それをもとに緊急時の連絡・教急体制についての研修・検討を進めるとともに、全職員の共通理解を図った。また、ヒヤリハット事例について報告書にまとめたり、情報共有した。</p>	<p>①引き続き、児童生徒の実態に応じた健康管理及び健康指導を計画的に行う。 ②オンラインや対面といった様々な形式での打合せ・研修を検討しつつ、児童生徒の実態に応じた保健に関する研修と継続するとともに、児童・生徒がここにに応じて参加でき自分で、自分の身の守り方や健康づくりに取り組める学習活動について検討を進めていく。 ③多様な場面を想定し、緊急時の避難や誘導を安全に行えるように、研修・訓練を継続して行う。児童生徒の危機管理能力を高めるために、今後もより実践的な訓練及び教育を行う。また、児童生徒の実態についての情報共有を継続して行う。</p>
<p>施設管理 教育環境整備</p>	<p>①児童生徒の安全安心な教育環境づくり ②児童生徒の実態に即した機器整備及び管理 ③感染症予防に向けた備品等整備及び取組の継続</p>	<p>①旧の安全基準に沿った遊具は撤去し、現在の安全基準にあつた遊具を設置するなど、定期的に美化作業や安全点検を実施し、できるだけ早く整備や修繕を行った。またプレイルームの吊り下げ感覚遊具の安全点検も行った。 ②サイハイボードや逆上がり補助器など、児童生徒が楽しく様々な感覚を身につけ活動できる遊具を整備した。また、多目的傾斜ボードや逆上がり補助器など、児童生徒一人一人の実態に応じた教具の整備にも努めた。 ③感染症対策として野外での活動の充実を図るため、テントやスピーカーなどを整備した。また、放課後校内の消毒作業を行う人員が配置されたことで職員の負担軽減を図ることが出来た。</p>	<p>①毎月の定期点検に加え、学期ごとの教材シートの活用等を用いての教材備品確認、年間1回の教材展示等を活用して、施設、備品の経年劣化等への対応を行う。児童生徒の使用頻度の高い遊具等の点検を今後も継続して行う。 ②今後もさまざまな児童生徒一人一人の学習活動を支援できるように、機器整備を継続して行う。 ③今後も助成金等を有効活用し、感染症予防や教育活動充実に向けた備品等のさらなる整備を進める。また、これまで整備した備品を、実態に即して、有効活用できるように使用方法等の見直し並びに市内学校園への周知を図る。</p>